

・会議で社会教育委員の皆さんと話しあってみたいこと。

- ① コロナの収束が近づいて、市民の社会教育活動はどのように活気づいているだろうか
コロナ以前のもとの姿にもどすのではなく、コロナ禍で学んだことも含めて、市民や子どもたちの現状がどうなっているか
- ② 社会教育委員の会議で今までよりも積極的に子どもたちの問題を取り上げよう
 - ① 学校教育や保育・幼児教育に関わる人が多い、またコミュニティ・スクールに造詣の深い出口委員もいらっしゃるの、その方たちの経験や見識を活かすために子どもをめぐる問題を積極的に話題にしましょう。
 - ② ちょうど、社会教育行政にとっても、コミュニティ・スクールや地域学校協働が重視されるなかで、これらの取り組みのなかで、社会教育活動あるいは地域住民の役割がどのように期待されているか（現にどんな取り組みをしているか）について、認識を共有することが大事です。前回の会議でも、次のようなご意見をいただきました。
 - i 地域学校協働は、「先生がたと地域の方が話せる機会をもたないと進まない」、「学校運営のたいへんなところを地域側が知ることが大切」（事務局）であり、社会教育委員の会議では、もっと「子どものことを話し合っていきたい」（山田委員）。
 - ii ふるさとを学ぶ機会を充実させるためには、「砂丘の風資料館（を）…もっと開放するなど機会を増やしては」（二上委員）（…図書館の役割も含め、…社会教育施設の積極的活用が課題となる一木村）。
 - iii 市民カレッジでは学芸員を講師として迎え、講座を行っている。小中学校にも地域の人材を使うように働きかけることが必要（山田委員）。
 - iv 地域学校協働をすすめるためには、「関係各所にヒアリングをすべきだと思います」、それぞれの団体が「子どもの教育についてどのように考えているか、何を問題と感じているかなどを把握することで」「『いしかりの子ども像』に向けて、それぞれの役割がわかってくる」（永田委員）
 - v コーディネーターをしていると、今まで関わってこなかった方も出てきて、そのような方々がアクティブに活動されているのが大切であると思う（松本委員）
 - vi 学校運営協議会の運営についても地域ごとの違いがあり、それぞれの実践の様子を市民が知ることにも意義がある（大橋副委員長）
 - vii 地域では分断がすでに進んでおり、社会教育が分断を止める、無くす役割を発揮することが急務です（永田委員）
- ③ 今後、どのように社会教育委員の会議を運営すること、あるいは社会教育委員がどのような役割を担うべきか話し合ってみたいと思います。 → 市民として知っておくべき子どもたちや学校が抱えている課題、地域学校協働やコミュニティ・スクールの取組について理解を共有し、市民に関わり、役割を果たすために、どのような学びが必要なのかを考えてみたいと思います。（具体的には、ヒアリングを行う、講座を主催する、シンポジウムやパネル・ディスカッションを実施するなど、今年度、社会教育委員としてどんなことが出来るか、皆さんのご意見をお聴きしたいと思います）。